

優秀賞

## 私の宝物

鹿児島県 鹿児島市立川上小学校六年 川上 由依

ずっと待っていたよ。産まれてきてくれてありがとう。これからよろしくね。

これは私が産まれたときに母が母子手帳の一ページ目に書いてくれた言葉だ。私が十二才のたん生日の日に私に母子手帳を見せてくれた。最初「母子手帳って何」と思った。病院でのにんしん中や出産後の経過、成長経過や予防接種などが書かれているだけでなく、母が思い出かのように一つ一つメモのように自分の成長を記入してくれていた。ページをめくるとお腹のエコー写真があった。母が、

「これが目、鼻、口そしてこれが手、足だよ。小さな小さな命だよ。」

と教えてくれた。私は「これがお腹の中にいたときの私だったんだ。小さな命だ」と思った。

「運動をして出産に備える、元気な赤ちゃんが産まれますように。」

いなかった。めくって一つ一つ読んでみると私や弟や妹の成長記録が分かった。クスツと笑ってしまうページもあって読んでみて面白かった。私の手のひらサイズの小さな手帳だけたくさん私の成長記録が書かれていた。

「これはいつまで書くの。」

母に聞くと、  
「由依が成人するまでかな。」  
と笑って答えてくれた。

母は私が産まれて二か月もしないうちに仕事復帰をしたそう。母はかんごしをしている。帰りがおそく、夜きんでいない日もある。けれどこの母子手帳を見て、母がずっと私や弟、妹の成長を見てくれていることにおどろいた。自分は愛情をたくさん受けて今まで生きてきているんだと思った。私もしょう来結こんし、子どもが産まれるときは母が書いてくれた大切な母子手帳を思い出して、たくさんのお母さんへの想いを母子手帳に書きたいと思う。この母子手帳は私にとっても母にとってもしょう来までの一生の宝物だと感じた。最近は、はずかしくて素直に話もしないこともあるけどいつか母に言いたい。「ずっと会いたかったよ、産んでくれてありがとう、これから

私は○月○日、早朝に産まれた。七時間五十一分も母が出産に命をかけたと話してくれた。私がミルクをよく飲み、よく笑い、声をかけると「アーウー」と返事をするのが母はうれしかった。ね返りした日、離乳をした日、歯が生えた日、初めて病気がした日、字が読めた日、書けた日、全てに日付が記入されていた。初めての友達の名前、私が書いたひらがなのメモ用紙、大好きだったキャラクターのシール、折り紙で作ったつるが母子手帳にはられていた。にんしん中から出産、小学校に入学するまでの六年間健しん全て記入されていて何も書かれてないページは一つもなかった。小学校に入学してから小さなメモに私の身長と体重、もらった賞状、マラソン大会の順位などたくさん記入してあった。

私は弟や妹と自分の母子手帳と比べてみた。どれも細かく記入され、姉弟三人とも同じことは書いてもよろしくね」と。

